

# 支部だより



## 東京同窓会

会長 太田勝治

去る十月十三日、東京同窓会の総会・懇親会が開催され、母校からは井上校長、太田総務主任、本部同窓会からは田中会長のご出席を賜りました。遠い所、又お忙しい所ありがとうございました。

参加者は昨年より増えて百三十名以上で賑やかに元気よく行われました。若い同窓生の初参加も多く、若手幹事達の日頃の努力が報われました。

講演会は二十七期の若松正雄氏、イベントでは、尺八奏者の金野鈴道氏（三十八期）と琴奏者の清水靖子氏（三十三期）が素晴らしい演奏をして下さいました。

このように東京同窓会にも多くの優れた才能の持ち主が沢山おられます。これからも、IT技術等を活用して、この才能を発掘して少しでも世の中に広めたいと考えております。



## 二ツ井能高会

### 「幹事会模様」

支部長 豊澤幸夫

総会の日時・会場・持ち方を決めるのが主な幹事会だが、もの一分で片付けられた。後は時の話題が次々と司会者なしの発言リレーだ。先ずは幕を引いたばかりの成年女子バスケット民宿の諸々の裏話だ。爆笑の連続なのだが、国体が地域結束を促し、大型女子選手を吾が孫娘と遇した感が強い。次は国体直前九月七・八日の大水害の件では被害は少なかつたといえ、米代川の水位最高記録を十一纏塗り替えた。堤防、上流ダム、情報伝達、避難場など話題になり、「あわや〜」と危機を感じた瞬間が語られ、今更戦慄を覚えた。

盃を重ねる毎に蘊蓄有る話が沸騰し、町の隅々まで同窓生の力が生きている様をみて取った。唯、総会に若い力が集まるかだ。

## 在青能代高校

### 同窓会

事務局 榎原誠

先日同窓会ホームページにアクセしたところ、恩師先生方の懐かしいお姿を拝見しました。失礼とは思いますが、頭髪の白くなられた方、あの当時と全くお变りのない方等々、大変懐かしくあの頃の自分にもアク

セスした様でありました。さて近況ですが、平成十五年十一月現在で名簿確認しているメンバーの方は二十九名であります。

平成十四年五月田中会長の御来賓参加をいただいた同窓会総会を開催、平成十五年七月物故者を偲ぶ会と合同で開催以来、事務局担当が在青秋田県人会の事務局長を仰せつかるなど諸事情で現在まで残念ながら開催を見送っております。同窓会ホームページを活用するなり、近いうちに同窓会総会を開催する様準備に入りたいと思っております。

## 北海道同窓会

支部長 菊地晃二

支部長の佐藤満徳さんが、一昨年病氣のために亡くなられた。彼は能代高校を最も愛する一人です。北海道同窓会も、彼の手柄で若い会員が増えることに期待していた矢先のことであった。

北海道同窓会の開催は、毎年秋に行われ、その時には能代から先生方も見えられ、学校の運動の成績のことや、進学の様子など、近況を報告していただいた。

最近の北海道同窓会の参加人数は、二十人に満たなく停滞気味である。北海道に能代高校の出身者がどの位おられるか、一度名簿の作成が必要と考えている。時には、札幌にでも集まって、近況や高校時代のことなどを話し合うことも意味があるものと考えているところである。

## 「本の中の母校」

同窓会長 田中仁純（第二十五期）

本を読んでいて母校のことにふれた文章に会うととてもなつかしいような気持ちになるものである。西村京太郎や内田康夫の全国各地でのサスペンスドラマには、秋田県や能代市が出てくる場面があるが、能代高校という校名は少ない。私の出会った本を紹介してみたいと思う。

後藤正治著の「遠いリンク」、山本義弘は秋田市出身で色白で筋肉質のいい棘をした選手であった。背丈もかなりある。二十一才、三戦三〇勝で後楽園ホールで東日本新人王の決勝戦にのぞんだ。山本はヨネクラジム所属、秋田は体操競技の盛んなところである。彼も秋田南中学校の時代に体操部に所属し、三年のとき東北大会で鉄棒・跳馬及び個人総合優勝をしたというからよほど素質があったのだらう。道理で身が軽やかなはずである。そして請われて体操の名門能代高校に進む、一九六〇年、ローマオリンピックで活躍した小野喬は能代高校出身であるが当然のように小野のようになってオリンピックに出るといふのが周りの期待であり彼の夢であった。ところが一年のとき練習中に腰を痛めてしまった。腰の負傷は長引いた。学校も体操もいやになっていった。ある朝、秋田から能代に出る電車に乗り遅れ次の電車まで二時間近く待たねばならない、そしてホームで待っている間に気が変わった。能代でなく、逆方向の上野行きの列車に乗っていたのである……というものである。

次の一冊は、吉永小百合著「旅に夢みる」――小学生に戻ったように新鮮な気分です。西原小学校への道をたどりました。当時その道には、東京教育大学の体操部があり、校庭で鉄棒の練習などしているのを学校帰りによく見物しました。「鬼に金棒、小野に鉄棒」と言われた小野喬選手も、ここで練習して、オリンピックの金メダリストになったのです。直接能代高校という校名は出ていませんが、母校の先輩の名が日本のマドンナである小百合の著書に出ているのでうれしくなる。

皆さんもこのような出会いがあると思いますので、ご存知の方は記事を寄せて下さい。

## 編集後記

「松陵」第十九号を発行するにあたり、

本号の編集には、教職員と同窓会広報部の役員が当りましたが、事務局の設置が年度途中のことでもあり、前号とはほぼ同じ編集方針に従っております。第二十号の編集に際しては、会報の内容について再検討し早い時期から準備に入る必要があります。

同窓会報「松陵」の紙面をさらに充実させるために皆様からのより一層のご協力をお願い申し上げます。